

多自然川づくりと AGS

北海道開発局では平成2年から現在の「多自然川づくり」の先駆けともいえる「AGS（アクア・グリーン・ストラテジー）」^{※1}の取り組みを行ってきました。

○多自然川づくり※1

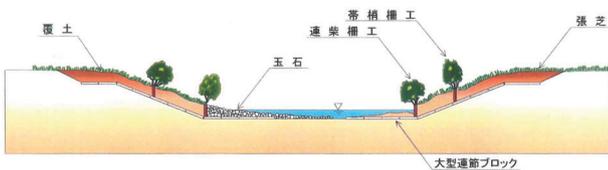
河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和に配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するために、管理を行うこと。

○AGS（アクア・グリーン・ストラテジー）※2

河川の安全を確保に加えて、水辺の自然環境の保全・自然との共生、さらには再生を目指し、真に水と緑が豊かで「魚・鳥・人にやさしい川づくり」を治水事業の柱として展開していこうという北海道開発局の取り組み。

十日川での事例

平成6年度に工事を行った利別川合流点付近を流れる十日川は、平成16年には、河畔林を育成し、木陰や魚類の隠れ場所、鳥類のすみかを創造しました。また、河道を蛇行させ、瀬と淵を形成することで良好な水辺の空間を創出しました。



十日川 標準横断面図



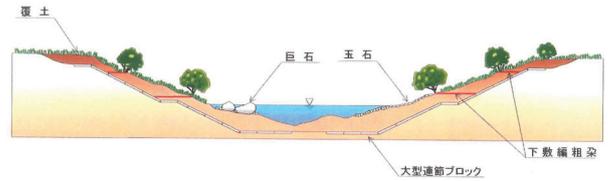
平成6年



平成16年

下頃辺川での事例

平成4年度は洪水に対する安全性を高めるための低水路を拡幅する工事を行う際、直線的にならないよう石を置くなど、川の流れに変化をつけ、瀬や淵をつくりました。また、河岸部は護岸に緩傾斜で覆土を行い、緑の再生を図りました。現在は、野鳥や魚類が多数生息しています。



下頃辺川 標準横断面図



平成4年度工区 完成後



平成8年度工区
(平成13年現在)

礼作別川での事例

かつて十勝川中流域には広大な湿地帯が広がっており、多くの湿地性の生物が生息していました。しかし、開拓が進むにつれて、湿地の約8割が消失しました。そこで築堤工事に伴う土取場を整地せず、窪地や水路とすることで、湿地ビオトープの創出を試みました。



平成11年



平成12年